

G-3 小学校5年食物学習(サラダ調理)について児童の意識調査(その2)
広島大 ○石渡すみ江 大妻女子大 大山サカエ 岩手大 清水 房

目的 その1 に同じ。

方法 その1 に同じ。

結果

1. サラダ調理の各作業に対する意識の難易と興味との間の順位相関関係は、全児童の場合には有意水準10%、男子の場合には有意水準5%で相関が認められたが、女子の場合には有意水準10%では相関は認められなかった。

2. サラダ調理の各作業に対する意識の難易と自己評価との間の順位相関関係は、全児童の場合には有意水準5%、男子の場合には有意水準10%、女子の場合には有意水準10%で相関が認められた。

3. サラダ調理に対する学校実習の興味と家庭の手伝いの程度との間の相関関係については、全体の児童の場合には有意水準1%、女子の場合も有意水準1%で相関が認められたが、男子の場合には有意水準10%では相関が認められなかった。

4. 学校で実習したサラダの味と家庭で作ったサラダの味との間の相関関係については、全体の児童の場合も男子、女子の場合いずれも有意水準1%で相関が認められた。

以上のことから、サラダ調理について、作業程度はふつうで、興味はある。また味はおいしくできたことになるので、5年の教材としては適当と思われる。

なお、指導の重点は 切ること、酢・油のはかり方にあるように思われる。